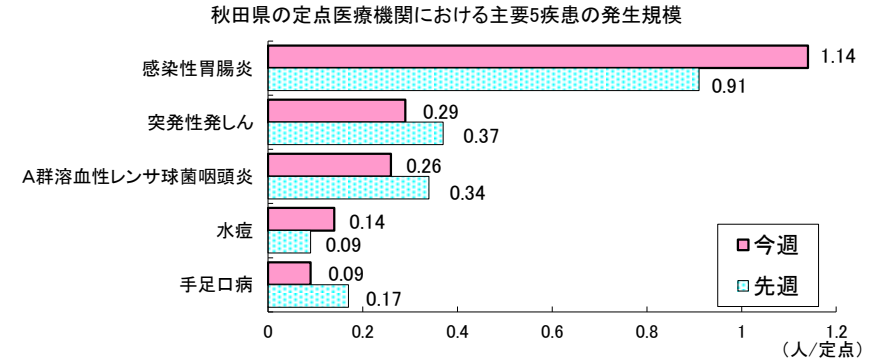




【第30週の発生動向】

< 定点把握対象疾患(週報)・前週比 >

1. 感染性胃腸炎は、県全体で1.3倍に増加しています。保健所別では、秋田市、大館、北秋田、能代、横手で増加、秋田中央、由利本荘、大仙、湯沢で減少しています。
2. 突発性発しんは、県全体で22%減少しています。保健所別では、北秋田、由利本荘で増加、横手で同規模、秋田市、大館、秋田中央で減少しています。
3. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で24%減少しています。保健所別では、秋田市で増加、大仙、湯沢で同規模、秋田中央、由利本荘で減少しています。



発生報告

< 五類定点対象疾患(週報) >

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減			
RSウイルス感染症																														
インフルエンザ																														
咽頭結膜熱	0.11	0.06	↘	0.29	0.14	↘	0.25		↘										0.25	↗	0.25		↘							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.34	0.26	↘	0.29	0.43	↗										1.50	0.75	↘	0.25		↘	0.50	0.50					0.25	0.25	
感染性胃腸炎	0.91	1.14	↗	1.29	2.29	↗	0.25	0.50	↗	0.50	1.50	↗	2.00	2.67	↗	1.50	1.25	↘	0.25		↘	1.25	1.00	↘	0.33	0.67	↗	0.50		↘
水痘	0.09	0.14	↗	0.29		↘	0.25	1.25	↗																					
手足口病	0.17	0.09	↘				0.25		↘							0.25		↘	0.25	↗	1.00	0.50	↘							
伝染性紅斑																														
突発性発しん	0.37	0.29	↘	0.86	0.57	↘	1.25	0.25	↘		1.00	↗				0.25		↘	0.50	↗				0.33	0.33					
ヘルパンギーナ	0.03	0.03																	0.25	↗	0.25		↘							
流行性耳下腺炎																														
川崎病																														
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*											*	*	
流行性角結膜炎	0.14		↘	0.33		↘				*	*		*	*		*	*											*	*	
細菌性髄膜炎																*	*													
無菌性髄膜炎																*	*													
マイコプラズマ肺炎																*	*													
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*													
感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるもの)																*	*													

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。  
「\*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から1人、報告されました。
- ・指定感染症の新型コロナウイルス感染症が秋田市保健所管内から2人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	1週-29週		30週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	9450	49	1
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	コレラ			
	細菌性赤痢	54		
	腸管出血性大腸菌感染症	1035	19	
	腸チフス	17		
	パラチフス	7		
四類	E型肝炎	266	2	
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	84		
	エキノコックス症	9		
	黄熱			
	オウム病	4		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	4		
	キャサナル森林病			
	Q熱			
	狂犬病	1		
	コクシジオイデス症	3		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症	1		
	重症熱性血小板減少症候群	39		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
	ダニ媒介脳炎			
	炭疽			

類型	疾患名	1週-29週		30週
		全国	秋田	秋田
四類	チクングニア熱	3		
	つつが虫病	105	8	
	デング熱	41		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	131		
	日本脳炎	1		
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	1		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ポツリヌス症	2		
	マラリア	13		
	野兔病			
	ライム病	12		
	リッサウイルス感染症			
	リフトバレー熱			
	類鼻疽			
	レジオネラ症	887	7	
	レプトスピラ症	1		
	ロッキー山紅斑熱			
五類	アメーバ赤痢	339		
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	139	2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	883	6	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	17		
	急性脳炎	332	4	
	クリプトスポリジウム症	3		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	79	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	449	3	
	後天性免疫不全症候群	551	1	
	ジアルジア症	14		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	178		
	侵襲性髄膜炎菌感染症	11		
	侵襲性肺炎球菌感染症	1044	9	
	水痘(入院例に限る)	205	7	
	先天性風しん症候群	1		
	梅毒	3110	36	
	播種性クリプトコックス症	76	1	
	破傷風	56	1	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	74		
	百日咳	2587	9	
	風しん	84		
	麻しん	12		
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	4		
指定	新型コロナウイルス感染症		16	2

トピック

<O157などの腸管出血性大腸菌に注意しましょう>

腸管出血性大腸菌は、ペロ毒素と呼ばれる毒素を出す大腸菌です。腸管出血性大腸菌には多くの型があり、県内ではO157、O26、O103といった型がよく報告されています(図1)。例年、8~9月には患者が多発するため、これからの時期は特に注意が必要です(図2)。

■症状

感染すると3~5日の潜伏期間の後、激しい腹痛と水のような下痢を起こします。続いて、出血性大腸炎により鮮血の混じった下痢(血便)が出るのが特徴です。腎不全を伴う溶血性尿毒症症候群や脳症といった重い合併症を併発する場合があります。特に、子供や高齢者は重症化のリスクが高いとされています。

※腹痛、下痢、おう吐、血便などの症状があったときは、早めに医師の診察を受けてください。自己判断で市販の下痢止めを服用し、重症化した例もあります。

■予防のポイント

- ・トイレの後、動物に触れた後、食品を取り扱う際は、石けんを使ってよく手を洗いましょう。
- ・調理器具はよく洗い、生肉を扱う箸などは他の食材で使用すると区別し、使用した後に他の食材に触れないようにしましょう。
- ・野菜や果物を生で食べる場合は流水でよく洗い、食肉等は十分な加熱をしましょう。また、調理後は早めに食べるようにしましょう。

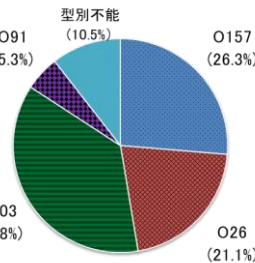


図1 秋田県における腸管出血性大腸菌の型別検出状況(2020年) \*第30週 現在

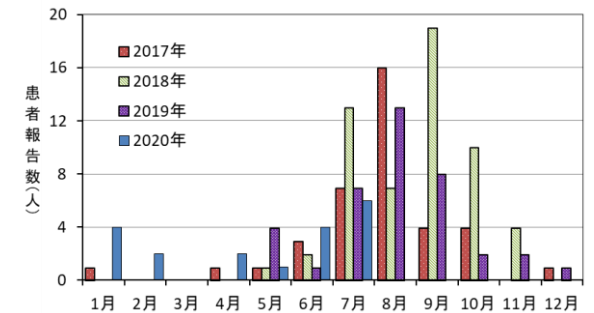


図2 秋田県における腸管出血性大腸菌感染症報告数 \*2020年第30週 現在

感染症の集団発生報告

水痘とかぜ様症状の集団発生報告がありました。

事例の種類	所在地	施設名	報告日	有症者数			把握期間	症状
				利用者(園児、入所者等)	職員	計		
水痘	鹿角市	馬毛内保育園	7/20	105名のうち 10名	28名のうち 0名	10名	7/7 ~ 7/20	発疹、発熱
かぜ様症状	美郷町	介護老人保健施設 杏苑苑	7/22	100名のうち 8名	61名のうち 3名	11名	7/12 ~ 7/22	発熱、鼻汁、鼻閉、咽頭痛、咳



**【注意報・警報の発生状況】**

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
水痘	大館(1.25)	-

■ 注意報・警報の定義

**【注意報・警報の定義】**

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大湯村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		